

けいざい+

ご意見は keizai@asahi.com

「日本に進出してもいい」ソニーに打診

経済産業省に意外な知らせが届いたのは2021年1月のことだった。伝令を務めたのはソニー会長の吉田憲一郎である。訪れた際、TSMCのCEO魏哲家(シーシー・ウェイ)から「あなたがパートナーになってくれる、日本に進出してほしい」という打診を受けた、というのだ。

この当時、商務情報政策局長だったのは平井裕秀だった。前年に経産省との極秘交渉は中断していたが、そこからわずか半年で心変わり。平井は「コロナ禍の半導体供給不足の問題があったからではないか」と振り返る。平井は日米半導体摩擦の末期に課長補佐として担当。日本の半導体産業の凋落に危機感を覚えている。

コロナ禍によって世界の生産活動は麻痺した。それに加えて、宮崎県の旭化成マイクロスステムの、次いで茨城県のルネサスエレクトロニクス

TSMC誘致の真相

トロニクス、一つの半導体工場が火災に見舞われ、自動車向け半導体の供給が止まった。代替してもらおうとTSMCに注文が殺到。すると「日本が欲しい」と、ソニーを介して経産省に伝えてきたのだ。

これまで、先端半導体の極秘交渉では、先端半導体を必要とするアップルのような「顧客」が「日本にはない」と言っていたのに、最先端でない半導体ならばソニーや自動車メーカーが買ってくれる、と踏んだのだ。ソニーは「世界が注目が殺到するなか、台湾で生産できないと思ったので、ソニーはTSMCの意向をそう推測する。」

不足し3.5倍増 合意に2年半超

国土交通省は27日、分譲マンションの住民が管理組合に毎月支払う修繕積立金の値上げについて理解を得るために、照明をLED化するなど経費削減にも取り組んだ。増額幅は1.1倍、下限の基準は0.6倍、増額幅が最大で約1.8倍に達した。増額幅が大きいほど、増額幅が最大で約1.8倍に達した。増額幅が大きいほど、増額幅が最大で約1.8倍に達した。

国交省 増額幅1.8倍の基準案

国土交通省は27日、分譲マンションの住民が管理組合に毎月支払う修繕積立金の値上げについて理解を得るために、照明をLED化するなど経費削減にも取り組んだ。増額幅は1.1倍、下限の基準は0.6倍、増額幅が最大で約1.8倍に達した。増額幅が大きいほど、増額幅が最大で約1.8倍に達した。

危機に平時から備え 改正案閣議決定

政府は27日、食料・農業・農村基本法の改正案や関係法案を閣議決定した。基本法は、食料危機に平時から備えて緊急時に対応する「食料安全保障」を柱とし、輸出を増やすことで国内の生産力を高めることを盛り込んだ。国会での成立をめざす。

農地の集約化 構造改革にブレーキの恐れ

今回の見直しは、日本の経済力に陰りがみられる中で、将来にわたって食料の安定供給を確保できるのか、という問題意識から行われたものかと思う。しかし、改正案には、従来の予算で対応してきた施策を文化したような規定が多く、食料の安定供給に資するものはあまり見当たらない。逆に、いくつか気になる点がある。

奥原正明 農林水産省次官

今回の見直しは、日本の経済力に陰りがみられる中で、将来にわたって食料の安定供給を確保できるのか、という問題意識から行われたものかと思う。しかし、改正案には、従来の予算で対応してきた施策を文化したような規定が多く、食料の安定供給に資するものはあまり見当たらない。逆に、いくつか気になる点がある。

多角的・多面的な見方が身につく 講義&ワークショップを実施

SDGsの達成に前向きに取り組む企業などと共同で、ご希望のあった学校での出張授業も実施しています。大人たちの話を聞き、仲間と一緒に話し合うことで、社会の課題をさまざまな視点・立場から考える態度が身につきます。SDGs学習ふせん「ベタッとSDGs」を使ったワークショップも好評です。

女子聖学院中学校

蛇口をひねればいつでもきれいな水が使える日本の生活。しかし地球上の水の99.9%以上は、海水などの「使えない水」。では私たちの水環境は一体どうやって守られているの？ そのことを学んだのは東京の女子聖学院中学校の生徒たち。

阿波市立吉野中学校

アルミニウムの総合メーカーUACJが訪れたのは、吉野川の堤防清掃活動「アドプトプログラム」を20年にわたって続ける吉野中学校。日頃から環境保全活動に取り組む生徒たちは、省エネや省資源に役立ち、「リサイクルの優等生」とも呼ばれるアルミニウムの特性を興味深げに学んでいます。

詳しい様子はこちら <https://www.asahi.com/sdgs/article/15105915>

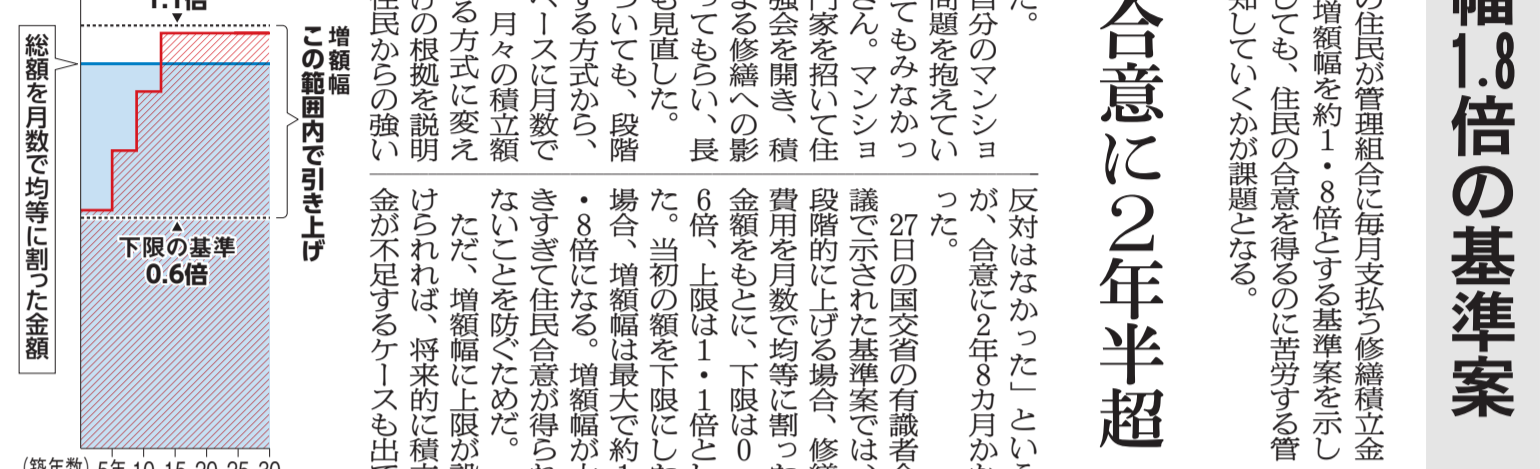
中高生のための朝日SDGsジャーナル <https://www.asahi.com/ads/sdgsjournal/>

朝日新聞 文部科学省 環境省

修繕積立金増額 難しい住民合意

国土交通省は27日、分譲マンションの住民が管理組合に毎月支払う修繕積立金の値上げについて理解を得るために、照明をLED化するなど経費削減にも取り組んだ。増額幅は1.1倍、下限の基準は0.6倍、増額幅が最大で約1.8倍に達した。増額幅が大きいほど、増額幅が最大で約1.8倍に達した。

マンション修繕積立金 増額幅のイメージ



昨年の広告費 最高7.3兆円

広告大手の電通が27日発表した2023年の国内広告費は、前年より3.0%増の7兆3167億円と、統計を取り始めた1947年以降の過去最高を更新した。新型コロナウイルス禍による行動制限が撤廃され各種のイベントが回復したことが寄与した。

食料安保、輸出増で生産UP

政府は27日、食料・農業・農村基本法の改正案や関係法案を閣議決定した。基本法は、食料危機に平時から備えて緊急時に対応する「食料安全保障」を柱とし、輸出を増やすことで国内の生産力を高めることを盛り込んだ。国会での成立をめざす。

農地の集約化 構造改革にブレーキの恐れ

今回の見直しは、日本の経済力に陰りがみられる中で、将来にわたって食料の安定供給を確保できるのか、という問題意識から行われたものかと思う。しかし、改正案には、従来の予算で対応してきた施策を文化したような規定が多く、食料の安定供給に資するものはあまり見当たらない。逆に、いくつか気になる点がある。

奥原正明 農林水産省次官

今回の見直しは、日本の経済力に陰りがみられる中で、将来にわたって食料の安定供給を確保できるのか、という問題意識から行われたものかと思う。しかし、改正案には、従来の予算で対応してきた施策を文化したような規定が多く、食料の安定供給に資するものはあまり見当たらない。逆に、いくつか気になる点がある。

多角的・多面的な見方が身につく 講義&ワークショップを実施

SDGsの達成に前向きに取り組む企業などと共同で、ご希望のあった学校での出張授業も実施しています。大人たちの話を聞き、仲間と一緒に話し合うことで、社会の課題をさまざまな視点・立場から考える態度が身につきます。SDGs学習ふせん「ベタッとSDGs」を使ったワークショップも好評です。

女子聖学院中学校

蛇口をひねればいつでもきれいな水が使える日本の生活。しかし地球上の水の99.9%以上は、海水などの「使えない水」。では私たちの水環境は一体どうやって守られているの？ そのことを学んだのは東京の女子聖学院中学校の生徒たち。

阿波市立吉野中学校

アルミニウムの総合メーカーUACJが訪れたのは、吉野川の堤防清掃活動「アドプトプログラム」を20年にわたって続ける吉野中学校。日頃から環境保全活動に取り組む生徒たちは、省エネや省資源に役立ち、「リサイクルの優等生」とも呼ばれるアルミニウムの特性を興味深げに学んでいます。

詳しい様子はこちら <https://www.asahi.com/sdgs/article/15105915>

中高生のための朝日SDGsジャーナル <https://www.asahi.com/ads/sdgsjournal/>

朝日新聞 文部科学省 環境省